

芳賀赤十字病院だより

8
Number

発行責任者／岡田 真樹

編集／芳賀赤十字病院 広報編集事務局 社会課 栃木県真岡市台町2461

ワッ! “災害だ” 災害救護訓練を実施!

「芳賀日赤・芳賀広域消防本部との連携」

災害拠点病院としての使命

真岡市を中心に大地震が発生！

病院内に災害対策本部を設置。職員の初動訓練並びに消防救助隊と日赤DMATが連携し、倒壊家屋から負傷者を救助。病院へ搬送するまでの合同訓練を実施した。（平成21年2月）



DMATとは、災害派遣医療チームといい、災害発生から48時間内に救助活動する、高度な技術を備えた医療救助隊です。芳賀日赤では、平成19年12月に厚生労働省医政局から認定を受けました。

救急車の搬送数の推移

年 度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
合 計	1,786 台	1,871 台	1,137 台	2,864 台	3,680 台	3,343 台

※救急車の出動から病院に着くまでの時間が、救命への明暗を左右します！「尊い命」を救うため救急車の適正利用にご協力ください。

かんでも通らない鼻づまり

耳鼻咽喉科副部長 藤澤嘉郎

私は昨春まで福島県会津地方に勤務しておりましたので、厳しい冬を越え、春が近くなるとホッとしました。

しかし、栃木では春はあまり歓迎される季節ではないようです。全国でもトップクラスの花粉飛散量をほこり、花粉症患者さんが多いからです。花粉症の3大症状は「くしゃみ」「鼻水」「鼻づまり」ですが、最もつらい症状は?と尋ねると、多くの方が「夜寝られないほどの鼻づまり、かんでもかんでも通らないのです」と答えます。大きな誤解があり「かんでも通らない鼻づまり」は鼻水がたまっているためではないのです!ではいったいなぜ?

正解の前に鼻の構造について簡単に説明します。鼻の穴から奥に進むと鼻中隔という「しきり」によって中は左右に分けられています(図1 SP)。その反対側には鼻甲介という「突

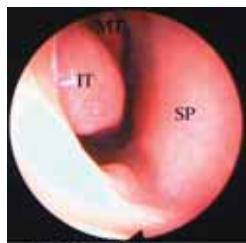


図1 正常な鼻の中
IT: 下鼻甲介 MT: 中鼻甲介 SP: 鼻中隔

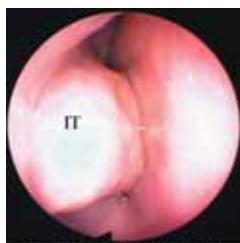


図2 アレルギー性鼻炎の下鼻甲介

起」があり、最も大きい下鼻甲介(図1 IT)が花粉症(アレルギー性鼻炎)の主な場所です。花粉症の患者さんの鼻をのぞくと図2のように下鼻甲介がむくんで空気の通り道が狭くなっています。これがかんでも通らない鼻づまりの原因です。



耳鼻咽喉科スタッフ

当院耳鼻科での花粉症治療は「薬」がほとんどです。下鼻甲介のアレルギー反応やむくみを軽減する薬や、炎症を治める点鼻薬などを使用しています。あくまでも対症的治療ですので、大飛散日の症状も完全に抑えることまではできないのが現状です。マスクによる自己防御や屋内に花粉を持ち込まないような工夫も必要です。

鼻閉に対する根本治療として鼻の中の形態を改善する手術を当科では各種行っております。この治療はホコリ・ダニなどのアレルギー性鼻炎もあり一年中鼻づまりがある方におすすめです。鼻づまりでお困りの方がいらっしゃいましたらぜひ当院当科でご相談下さい。



芳賀赤十字病院

〒321-4306 栃木県真岡市台町2461 TEL 0285-82-2195(代) FAX 0285-84-3332 <http://www.haga.jrc.or.jp/>
編集協力／株式会社山印刷

院内がん登録について

当院において平成20年10月より「院内がん登録」を開始いたしました。

「院内がん登録」とは、がん患者に対し診断、治療、経過などの記録です。がん患者が増加傾向にある我が国において、「がん」と診断された患者様、又は患者様のご家族が、様々ながらんの病態に応じて、安心・納得できる医療を受けられるよう又、がんに負けない社会を目指しその指標にしていくものです。

当院では平成20年10月よりの開始ですのでまだ数は少ないのですが、平成20年10月の登録状況をお知らせいたします。

10月 がん治療患者総数 44名

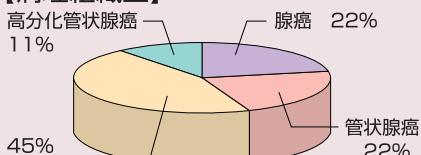
胃 癌	9名
大腸癌	12名 (直腸・S状結腸・上行結腸・その他)
肺 癌	7名
乳 癌	4名
その他	12名

今回は胃癌に関する登録状況をお知らせいたします。

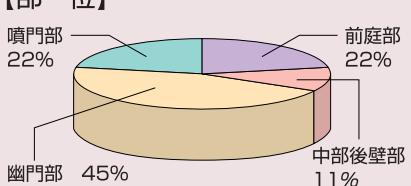
胃癌患者総数	年齢別
9名	50歳代 1名
男性 8名	60歳代 3名
女性 1名	70歳代 3名
	80歳代 1名
	90歳代 1名

手術件数
EMR(内視鏡的粘膜切除術) 1件
幽門側胃切除術 3件
胃全摘術 2件

【病理組織型】



【部 位】



真岡女子高生による春のおとづれ

恒例「春のミニコンサート」開く

去る、3月14日(土)に真岡女子高合唱部、青少年赤十字クラブ（JRC部）の協力により、「春のミニコンサート」が開催されました。このコンサートは毎年、患者様などを対象に、体験学習推進事業の一環として行っています。



当日は、合唱部、JRC部の部員30名と川田明良、茂垣真司両先生に引率され、患者様とのふれあいのひと時を過ごしました。合唱曲「早春賦、栄光の架け橋」など9曲に集まった患者様たちは、心に響いた歌声に聞き入っていました。最後には、患者様からアンコールがかかり、真岡女子高校校歌を熱唱され大きな拍手でフィナーレとなり、皆さんさわやかな気持ちで会場を後にしました。

私達、二宮町赤十字奉仕団は、他奉仕団とは異なり(新石町)の女性有志、34名で活動しております。少人数ではありますが團結力は自慢できます。何か地域に…と考えついたのが当奉仕団でした。参加させていただき27年を迎えようとしています。それでは活動を紹介させていただきます。会員を5班に編制し、年度始めに年間のローテーションを組みます。年間5回位廻ってきます。日赤ボランティアは月一回、第一火曜日で医療衛生材料の折りたたみ等を行っております。また、その時古布を持参して病院で活用していただいております。もう一つの活動として、地元の特老ホームに月一回(第二木曜日)訪問しています。買物の介添え、ホーム内での話し相手、レクリエーション等をしております。私達の訪問日、玄関先に財布の入った巾着を大事そうに持ち、車イスに乗り私達の来るのを遅しと待つていてください。そのにこやかな顔を拝見すると、私達の心が癒される想いです。また、アルミ缶回収、講習会、研修旅行等をおこなっています。それらアルミ缶収益金は、車イス、医療器材の購入、義援金等に充てています。

(平成21年2月寄稿)



一宮町赤十字奉仕団
委員長 寺内 美知子

私たちば、赤十字の
サポートターです。

個別性にあった 思いやりのある看護を目指して

私たちの勤務する中央館五階病棟は、内科病棟です。おもに循環器・呼吸器内科の患者様が入院しています。内科医 12 名と豊田看護師長をはじめ 39 名の看護職員で「安心・安全な医療と看護を提供し、二次救急医療の役割を果たす」を基本方針としています。患者様一人一人の個別性にあった思いやりのある医療と看護を志し、努力しています。



中5のスタッフ達

毎日医師を含めたチームカンファレンスや他部門とのカンファレンスを行い、多方面から患者様一人一人を看護しサポートしています。



朝の申し送り



カンファレンス



心臓カテーテルチーム

心臓カテーテル検査及び経皮的冠動脈形成術

腕や足のつけ根の血管から、ボールペンのシンくらいの約 1m のカテーテルを心臓まで進めて血管の狭い部分を見つけてその部分をバルーン（風船）やステント（金属の筒）をいれて治療します。

僕達に
まかせてください。



急性期リハ・早期離床をめざして

リハビリテーション技術課には理学療法士8名、作業療法士4名、言語聴覚士2名、視能訓練士2名、助手2名が所属しています。当院では、患者さまがより充実した社会生活を送れるようになることを目標に、リハビリ開始となってから退院まで毎日訓練を行います。スタッフによるマンツーマンの訓練を中心に、退院時の福祉機器の相談・指導も行います。必要な方には退院後の訪問リハビリも行っています。地域における介護予防教室も実施しています。



理学療法士



障害や体力低下をきたした患者様に対して基本動作・日常生活動作の再獲得を目指します。

また、糖尿病の運動指導や呼吸療法による呼吸リハビリ、スポーツ外来、肩や膝外来などの特殊外来にも対応しています。

作業療法士



脳血管疾患や内部疾患の患者様に対して、起き上がり、座位・トイレ動作などの日常生活動作の獲得を行います。また、整形疾患による関節や筋肉の痛みを改善し、円滑に日常生活を送れるよう援助を行います。



リハビリテーション技術課
課長 市川 俊子

質の高い急性期のリハビリを
提供出来るように努めています

言語聴覚士

主に脳血管障害にて失語症や構音障害など後天的に言葉に障害をきたしてしまった方への言葉のリハビリや、摂食・嚥下の機能に障害をきたしてしまった方へ食事をとれるようにすることを目標にリハビリを行っています。



視能訓練士

眼科では医師の指示のもとに、視機能検査（視力・視野・屈折・調節・色覚・眼球運動・涙液・超音波・電気生理学など）を行うと共に、斜視・弱視の訓練治療にも携わっています。



2008年4月～12月までのリハビリの対象者

